

日本英文学会第98回全国大会

同志社大学今出川キャンパス 5/16(土)・17(日)

日本英文学会第九八回全国大会に寄せて

言葉はつづられた瞬間に口元が滲み、ゆき、あつとつ間に過去へと押し流されてしまふ。文字はそれを押しとどめ、それを常に既に先立つ時間の痕跡でしかない。文字を書いた主体は、現役の手書きであれ、泉下の書き手であれ、少なとも同じ状態のままで、その意味では本質的に「死者」と選ぶことがない。文字を読むという行為は、いつまでも場がない「死者」に寄り添い、その言葉に耳を傾け、その生の感触を甦らせようとする。折りにも似た行為なのだ。

わたしたち文学研究者は、常に過去に誰かが書いたテキストに向き合い、そこに生きたかな感触を見出し、書かれた文字に命を吹き込みそれがわたしたちに向かってくる。わたしたちが、今後とも読み続けたい。この二日間、会場ではさまざまな声が生業にしている。うな問題意識を持って見られるだろう。考えてみれば、後に残すべく文字で書かれたテキスト、ひいては文学一般は、同じように「死者」の時間性をもつ。未来に何をめぐる面白い議論がある。(記念日)というからには、それは過去の特定の時間を思い出すこととしてお

はまた、僕万智選歌集、五八二頁。文学もさうだろう。文学は過去の作家の思いを来に伝えるもので、それを読む行為は必然的に過去へのまなざしを含むが、同時にそれはその作品が今後も読者に値すること

を証明する、未来に向けた営みでもある。逆に言えば、もし誰もその作品を読まなかったら、その作品は消えてしまふ。だから、わたしたちは読み続け、語り続け、一度忘れられてしまった作品をもう一度読み返し、それを今のわたしたちに訴えかける作品として甦らせ、もつたわたしたちの文化を豊かにしようとする。毎年五月に開かれる日本英文学会年次大会が、そのように「死者」たちの思いを未来につなげていく(記念日)の役割を果たすことを願ってやまない。(よこづち・かずお) 英文学者・関西学院大学教授

言葉、文学、祈り

横内 一雄

心理分析で知られる、現代の臨床心理学の知見を踏まえて読み返すと、彼女が作中人物に託して書いた心理描写はわたしたちに何を語りかけてくるのか。一九八一年生まれの現役作家トリー・ピターズは、つい五年前に発表した小説で多様な女性に生きる人々の生活・人生について葛藤と共生を描いた「わが、今後は読み続けたい。この二日間、会場ではさまざまな声が生業にしている。うな問題意識を持って見られるだろう。考えてみれば、後に残すべく文字で書かれたテキスト、ひいては文学一般は、同じように「死者」の時間性をもつ。未来に何をめぐる面白い議論がある。(記念日)というからには、それは過去の特定の時間を思い出すこととしてお

はまた、僕万智選歌集、五八二頁。文学もさうだろう。文学は過去の作家の思いを来に伝えるもので、それを読む行為は必然的に過去へのまなざしを含むが、同時にそれはその作品が今後も読者に値すること

を証明する、未来に向けた営みでもある。逆に言えば、もし誰もその作品を読まなかったら、その作品は消えてしまふ。だから、わたしたちは読み続け、語り続け、一度忘れられてしまった作品をもう一度読み返し、それを今のわたしたちに訴えかける作品として甦らせ、もつたわたしたちの文化を豊かにしようとする。毎年五月に開かれる日本英文学会年次大会が、そのように「死者」たちの思いを未来につなげていく(記念日)の役割を果たすことを願ってやまない。(よこづち・かずお) 英文学者・関西学院大学教授

私の研究テーマ

少女雑誌における「書くこと」の実践

牟田有紀子 城西大学准教授

書く子ども/書かれる子ども 主体と客体のあいだ

司会・講師

シンポジア

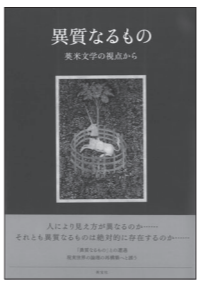
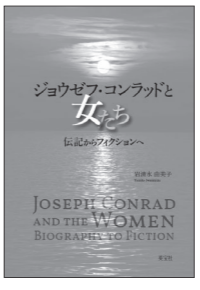


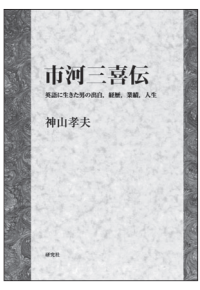

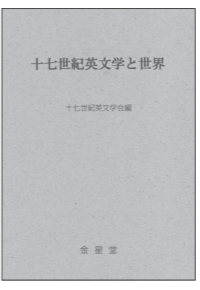


十九世紀末から二十世紀初頭のイギリスでは、「girl」と呼ばれる二十代前半までの若い女性たちの文化が開花していた。ニュー・ウーマンな形成される少女文化が、読者である少女たちの「書くこと」に大きく支えられていた点である。この時代に流通していた主な少女雑誌として、『マンズリー・パケット』、『ガールズ・オヴン』、『パール』、『アタラシ』、『ガールズ・レトルム』が挙げられる。超保守派からモダンな雑誌まで多様な雑誌が出版されていた。

少女雑誌は、小説や詩だけでなく、歴史や社会に関する知識や教養、学校や職業の情報、さらにはスポーツに関する記事などを幅広く掲載し、やがて、大小様々な懸賞企画へと展開し、書き手としての読者が次第に前面化していった。雑誌内にクラブや慈善団体が設けられると、「書くこと」を媒介とした共同体が構築されていった。読者が自発的に各地で慈善活動やミチンクを行うことで、雑誌を媒介とした共同体は具体的な行動を伴うものへと発展した。もちろん、「書くこと」は完全な自由を保証するものではない。投稿は編集者に選別され、望ましい言葉遣いや価値観が示される。これは否定できない。一方で、読者の声が雑誌のあり方に影響を与えていたのも事実である。

雑誌研究の核心は、新旧の価値観、読者と編集者の思惑、出版理念と商業的価値のせめぎ合いにある。読者の役割に注目することで、それらとの関係はより鮮明に浮かび上がる。「書くこと」は少女にとって自己表現であると同時に、社会を学習し、他者をつなぐための手段であった。「むた・ゆき」(英文学)

特集 英米文学 / 研究書のススメ

※価格は税込み(10%)表記

<p>後期イギリス・ロマン派文学と神話形成 バイロン・キーツ・シェリー夫妻</p>  <p>A 5判・256頁・4180円 日本シェリー研究センター編 詩人たちの神話化が過度な単純化に陥ることのないように、精緻な読みに基づいた新たな解釈を提示する12本の論考。 音羽書房鶴見書店</p>	<p>トマス・ハーディを読む 文学の可能性を求めて</p>  <p>A 5判・544頁・5500円 日本ハーディ協会編 人生、長編小説、中・短編小説、詩、テーマ別批評にジャンル分けされた全24章の論考に加えて10本のコラムからなる。 音羽書房鶴見書店</p>	<p>異質なものの 英米文学の視点から</p>  <p>A 5判・168頁・2640円 文学と評論社編 アン・ラドクリフからロイス・ローリーまで、8作家における「異質なものの」から別世界への探検を読者に促す意欲的な論考集。 英宝社</p>	<p>Melancholy and Mosaic Style Robert Burton's Therapeutic Writing Seen through Seneca</p>  <p>A 5判・240頁・4400円 神原知樹著 ロバート・バートン『メランコリーの解剖』を再読し、引用が思考を構成する「モザイク様式」としての文体とその治療的機能を解明する。 英宝社</p>	<p>ジョゼフ・コンラッドと女たち 伝記からフィクションへ</p>  <p>A 5判・208頁・2860円 岩清水由美子著 「コンラッドと女性」という問題について、作家と深く関わった三人の女性に焦点を当てて作品世界を論じた新たなコンラッド研究。 英宝社</p>	<p>一八世紀の「シェイクスピア崇拜」 その成立と展開</p>  <p>四六判・264頁・3960円 佐々木和典編 詩聖シェイクスピアはいかにして誕生したのか? シェイクスピア協会の後英9名が英文学史上最大のミステリーに挑む。 英宝社</p>
<p>メルヴィルと両義性の詩学 後期小説への測船</p>  <p>A 5判・364頁・4400円 西谷拓哉著 『白鯨』以降の後期小説『ビエール』『信用詐欺師』等を精読し、両義性・曖昧性に満ちたテキストの深み・測船を下ろす。 北島山編集室</p>	<p>カズオ・イシグロ、 沈黙の文学</p>  <p>四六判・312頁・3520円 原英一著 『幽かなる丘の眺め』から『クララとお日さま』に至るイシグロの長編小説全8作品を「沈黙」「省筆」をキーワードとして読み解く。 北島山編集室</p>	<p>メディアの中の女性 一文学、歴史、言語の世界</p>  <p>A 5判・344頁・4400円 坂本季詩雄・布施将夫・北尾泰幸・林姿穂 編著 メディアに投影される女性像を「文学・歴史・言語」の三視点から再解釈し、新たな視座を提示する。 開文社出版</p>	<p>英国の書物出版文化史 一著者、出版者、読者との関係から</p>  <p>A 5判・176頁・3300円 都地沙央里編著 向井・村里・山口・池田著 活版印刷術黎明期から500年の英国書物出版史にて、著者、印刷者、出版者、読者と文学の関係を紐解く一冊。 開文社出版</p>	<p>スペンサー・ハンドブック 一詩人と作品ガイド</p>  <p>A 5判・178頁・2420円 日本スペンサー協会編 16世紀英国の詩人エドモンド・スペンサーの生涯と作品を解説した手引き書。より深く学びたい人のための必読書案内付き! 開文社出版</p>	<p>イギリス小説研究の最前線 18世紀から現代まで</p>  <p>A 5判・368頁・4180円 原田範行・麻生えりか編著/河内恵子監修 18世紀から現代にいたるまでの作家、批評家を論じて、イギリス小説の多様な魅力を再発見する全17論考。 音羽書房鶴見書店</p>
<p>市河三喜伝 英語に生きた男の 出自、経歴、業績、人生</p>  <p>A 5判・514頁・14300円 神山孝夫(著) 一生を日本の英語英文学研究の発展に捧げたが国英文学の祖、市河三喜の初の本格的伝記。現存資料を網羅的に精査。図版多数。 研究社</p>	<p>『ジェイン・エア』、『ヴィレット』、 『北と南』におけるモビリティ、 モダニティと空間</p>  <p>A 5判・203頁・2750円 石井麻璃絵著 本書は、19世紀イギリスのミドルクラスの女性がいかに移動性を発揮し、空間とアイデンティティを確立していくかを考察したものである。 金星堂</p>	<p>愛と笑いと革命の『ユリシイズ』</p>  <p>B 6判・200頁・2750円 新名桂子・岩下いづみ・田中恵理編著 『ユリシイズ』の一体何がすごいのか—この問いを、「愛」と「笑いと革命」をキーワードに考察する。 金星堂</p>	<p>現代英米文学における追悼と鎮魂 20世紀英米文学研究 XIII</p>  <p>B 6判・202頁・3080円 20世紀英米文学研究会編 追悼と鎮魂をテーマに、7人の作家とその作品を取りあげ論じる20世紀英米文学研究シリーズの第13巻。 金星堂</p>	<p>十七世紀英文学と世界 十七世紀英米文学研究 XXI</p>  <p>A 5判・358頁・5280円 十七世紀英文学研究会編 世界が劇的に変貌を遂げていた十七世紀に、英文学がいかに多様な世界を創造的/想像的に言語化したのかを探る15編。 金星堂</p>	<p>スポーツする英語文学</p>  <p>A 5判・192頁・2750円 サウンディングス英語英米学会監修/杉野健太郎・下橋昌哉編 19世紀から21世紀にいたる英語文学におけるスポーツを論じる。 金星堂</p>
<p>英国旅の目的地 1000! 学習・選定・準備</p>  <p>A 5判・304頁・3850円 鈴木右文著 学ぶ姿勢をもった若い人びとの旅を念頭に、約1000の目的地を写真添えてリストアップ。訪問先選定の切口から心得、事前学習まで。 彩流社</p>	<p>ポアロの部屋はなぜモダン? アガサ・クリスティで読み解く 20世紀デザイン史</p>  <p>四六判・252頁・2530円 菅靖子著 小説に描かれた空間やモノ、同時代のデザイン。クリスティの作品と生涯を辿ると20世紀イギリスのデザインと視覚文化が見えてくる。 彩流社</p>	<p>世紀末イースト・エンドと スラム小説 ヴィクトリア朝ロンドンにおける貧困の表象</p>  <p>四六判・360頁・4180円 田中孝信著 世紀末ロンドンのイースト・エンドを舞台にした「スラム小説」を、当時の社会背景と照らし合わせて分析する。詳細な関連年表付。 彩流社</p>	<p>英国幽霊いまむかし (怪奇の本棚) 第10回本</p>  <p>四六変型判・394頁・3960円 南條竹則編訳 怪談が文芸として成立する以前にも英国には英語・民話・民話で長い伝統があった。英国怪談文学の展開を歴史的に辿るアンソロジー。 国書刊行会</p>	<p>英文精読教室 第1巻 物語を楽しむ</p>  <p>A 5判・258頁・2420円 柴田元幸(編訳) 詳細な注・解説・対訳を施して、イシグロ、ルネグウィン、パロウスなど厳選した英語短編を堪能する(全6巻シリーズ)の一冊。 研究社</p>	<p>古英語・中英語初歩 (新装復刊)</p>  <p>B 6判・272頁・3300円 市河三喜・松浪有(著) 伝統的入門書が待望の復刊。古英語・中英語の基礎的な知識を身につけ、それぞれ10点の注釈付き原文テキストを読む。 研究社</p>

二〇二六年五月一六日(土)・一七日(日)、日本英文学会第九八回全国大会が同志社大学今出川キャンパスで開催される。この全国大会開催を機に「英米文学」研究書のススメと題し、各社お薦めの書籍を紹介。また同大会の横内一雄氏に本大会へのメッセージをシンポジウムや研究書に参加する若手研究者には自身の研究テーマに関するメッセージを寄せた。(編集部)